

2026年3月25日

実践報告に関する情報公開

当院では、以下の実践報告を実施しております。本実践報告は、通常の診療過程で得られる情報を利用して行うものです。

このような研究は、厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、対象となる方お一人おひとりから直接同意を取得する代わりに、研究内容を公開し、対象者が参加を拒否できる機会（オプトアウト）を設けることが求められています。

本実践報告への参加を希望されない場合、または内容についてご質問等がございましたら、下記の【問い合わせ先】までご連絡ください。

【実践報告題名】

モニタアラームコントロールチーム実践報告-テクニカルアラーム低減と安全なモニタ管理を目指して-

【研究実施責任者】

斗南病院 看護部 沼田佳子

【研究協働担当者】

斗南病院 看護部 光野薫

【実践報告目的】

生体情報モニタは、患者の生命に関わる異常や、装置・測定状態の異常をアラームで通知する、医療安全上不可欠な医療機器です。一方で、米国 ECRI が公表する「Top 10 Health Technology Hazards」では、アラーム関連ハザードが2年連続で指摘されており、過剰なアラームによる「アラーム疲労」は国際的な課題となっています。

A病院では2018年より、医療安全管理者を中心に生体情報モニタのアラーム対応に関するラウンドを実施し、テクニカルアラーム低減に向けた改善策の周知を行ってまいりましたが、院内で統一した運用には至っていませんでした。

そこで2023年より、病院長直下の部門横断的組織としてモニタアラームコントロールチーム（Monitor Alarm Control Team：以下 MACT）を立ち上げ、院内全体でアラームマネジメントの改善に取り組みました。本実践報告は、テクニカルアラームの無駄鳴り低減と、医療者のアラームに関する知識向上を目的としています。

【対象者】

以下の期間に、6階病棟～10階病棟およびICUにおいて心電図モニタを装着していた患者様 764名

- ・2023年12月18日～2024年1月17日
- ・2024年11月3日～2024年12月2日

【実践報告に用いる情報】

上記期間中に発生した、心電図モニタのアラーム内容（アラームログ）

【実践報告組織】

斗南病院 看護部

【個人情報の取り扱い】

本実践報告で利用する情報は、通常の診療過程において自動的に記録されるアラームログを集計したものであり、個人を特定できる情報は含まれておりません。収集した情報は、研究責任者が責任をもって適切に管理を行います。

【問い合わせ先】

斗南病院

【研究実施責任者】

斗南病院 看護部 沼田佳子

【研究協働担当者】

斗南病院 看護部 光野薫

電話：011-231-2121（代表）